

本時のねらい

・自分たちの通う小学校の教室や約束を表す記号を考えることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・1人1台端末を用いて、学校内の教室の場所や、学校生活における約束を表す記号をつくる。
・自分たちの小学校に役立つ活動をする中で、学習に意欲的に取り組む。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Apple TV ・大型モニター ・学習支援アプリ（ロイロノート） ・ibisPaint（お絵かきアプリ）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○本時の課題をつかむ。 ○めあての確認 「藤が尾小学校の教室や約束を表す記号を考えよう」 【写真1】	・教師がkeynoteで作成した記号クイズ（令和5年度のわくわく問題P22を使用）を行うことで、記号（ピクトグラム）がシンプル且つわかりやすく作られていることを意識させる。 ・ピクトグラムを題材とした令和5年度のわくわく問題3を振り返り、相手に分かりやすく伝えるための工夫を確認する。 ・教師が作成したモデルを提示し、提出用シートの内容を確認する。
展開 (25分)	○記号を考える。 （教室（場所）、ルールやマナーを示すもの） ○友だち同士で見せ合いながら、お互いにアドバイスを伝える。 ○記号を完成させる。 【写真2】	・学級内で割り当てた場所や約束について、ロイロノートやibisPaintを使い、相手の立場に立って記号を考えさせる。（どちらのツールを使うかは、児童本人に選択させる） ・途中でアドバイスをする時間を設けることで、良い点や改善点について意見交流し、記号に生かす。 ・標識に使われている○、△、□の形の特徴を認識させ、自分の記号にふさわしい枠を選ばせる。
まとめ (10分)	○ロイロノートの提出用シートに記号の説明を入力し、提出する。 【写真3】 ○考えた記号を共有する。 ○本時を振り返る。	・ロイロノートの提出箱に提出し、それぞれの作品を交流する。工夫がわかるものを適宜取り上げ、共有する。 ・ロイロノートで作成した簡単なチェックシートを用い、記号の作成ポイントを意識できていたかを振り返らせる。 ・次時に作品を完成させ、記号を交流し合うことを伝える。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】 教師のモデルを提示し、工夫ポイントを共有している場面



【写真2】 わかりやすさを意識しながら、記号や枠を作成している場面



【写真3】 ロイロノートに提出するために、シートに工夫したポイントを整理している場面

児童生徒の反応や変容

・わくわく問題の例を出すことで、活動のイメージをもつことができた。
・自分たちの学校の記号を考えるという身近な活動を設定したことにより、意欲的に取り組む姿が見られた。
・ロイロノートかibisPaintどちらを使うかは本人に決めさせたことで、それぞれで工夫を凝らしながら記号を作成することができた。
・途中で友だちと見合って交流する時間を設けたことで、ヒントをもらったり、アドバイスをしたりすることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・普段の授業ではロイロノートを使うことが多いが、ibisPaintも選択肢に入れたことで、より細かく工夫したい児童はibisPaint、慣れているアプリを使いたい児童はロイロノートのように、自分でツールを選択できるようにした。最後は、ロイロノートで提出させることで共有することができた。
・導入でkeynoteを使い、本時のめあてやポイントなどを提示することで意欲を高めることができた。